

地図を読んでもみよう

看護学部准教授 柳生文宏 (2014.7.22)

今日は地図について書いてみようと思います。図書館に蔵書されていて「地図」という言葉をタイトルに含んでいるものを見てみると、ロードマップや地図帳などいわゆる普通の地図本から健康に関する指標で国ごとに色分けしたようなテーマが決まっているもの、さらに遺伝子が染色体のどこにあるかといった地理ではないものまで様々なものがあります。

近年はインターネットで地図が簡単に手に入り、またカーナビやスマホなどの機器によりどこにいても必要な地図が必要なきに利用できるようになってきました。紙の地図を使うことも少なくなってきたかもしれませんが、地図を見る機会は増えているように思われます。皆さんが、地域に出て実習するときに地区踏査や対象者のいるお宅の場所を調べるのに地図を使うと思います。多くは行きたい場所へ行けるように描かれた簡易なものはずです。

国土地理院が発行している地形図を見たことはありますか？土地の高低が等高線で表されており、小中学校の社会の時間に習った地図記号が描かれています。山を見ると尾根と谷でできているのがわかります。当然、谷には川が流れています。山の中の川なので細く対岸に渡るのは簡単です。逆に尾根越えて向こう側の谷に行こうとしたら一度登ってから下るということをしなくてはなりません。だから、山間部でのコミュニティーは川を挟んで広がっているわけです。それが下流に行くと川幅は広がり、渡るのに橋が必要になってきます。そうすると、ひとの交通は川によって隔てられるので、コミュニティーの境界線は川になります。等高線と川という情報だけでもこのようなことがわかるのです。このように地図を読むことによってそこに住む人々の生活が見えてくるのです。

学生のみなさん、地域への実習に行く前に地図を読んでもみてはいかがでしょうか？